

科学技術振興機構
「リスクに関する科学技術コミュニケーションのネットワーク形成支援」プログラム

平成24年度採択企画
「放射線安全確保に資するコミュニケーション
技術開発と専門家ネットワーク構築」

活動状況

平成25年3月5日

京都大学

(目次)

項 目	ページ
1. 概要	3
1.1 企画概要	3
1.2 企画の背景・経緯	3
1.3 当該年度の目標	4
2. 当該年度の実施状況	5
3. 当該年度の成果及び波及効果	5
4. 今後の課題と展開	6
5. 資料編	7
資料1 当該年度における活動一覧	7
資料2 連携機関一覧	12
資料3 外部発表等	13
資料4 成果資料等	14
資料4.1 JST リスコミプロジェクトホームページ	14
資料4.2 サイエンスアゴラ2012におけるリスコミパネル討論 会内容	15
資料4.3 サイエンスアゴラ2012においてサイエンスアゴラ賞受 賞	16
資料4.4 一般公開講演会「食卓が家族を救う」開催パンフレット	17
資料5 その他資料	19
資料5.1 平成24年度 JST リスコミ支援事業で実施した放射線の健 康影響に関する Q&A 講演会開催記録	19
資料5.2 平成24年度 JST リスコミ支援事業で実施した緊急時リス コミの実態に関するアンケート内容	26
資料5.3 平成24年度 JST リスコミ支援事業で実施した緊急時リス コミの実態に関するアンケート解析結果	30

1. 概要

1. 1 企画概要

平成23年3月に発生した東日本大震災とそれに伴う巨大津波が原因となっておきた東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて、我が国の緊急時リスクコミュニケーションシステムで重要な三つのポイントが、いずれもが不十分であったと推察され、その検証をおこない緊急時に役立つリスクコミュニケーション法を再構築することが必要である。

そこで、本事業は、原発事故後の状況を詳細に調査し、リスクコミュニケーションに失敗した原因を探ることから、ここに示した問題点を回避しつつ、突発的なリスク事象発生時に必要な（1）リスクコミュニケーション技術の開発と独立性・中立性の高い（2）（放射線安全に関する）専門家ネットワークの整備の二点に焦点を絞り三年計画として計画した。

具体的には、まず、福島原発事故後の放射線の健康影響に関する科学情報コミュニケーションがどのようなになされ、それがどのような結果を招いたかについて、情報の流し手（政府や専門家側）および情報の受け手（住民側）の立場から詳細に調査・解析する。そのために、専門家とともに市民活動家を含め本事業に参加する分担者で構成する「リスク研究会」を立ち上げ活動する。リスク研究会の調査成果に基づいて、突発的かつ広範囲なリスク事象を乗り越えるために必要なリスクコミュニケーション技術の開発をおこなう。

さらに、こうした活動に平行して、主として放射線の専門家で構成する「専門家ネットワーク設置研究会」を立ち上げ、リスク検討会の活動によって創造されたリスクコミュニケーションスキルを最大限に発揮し、国民の信頼を得られる（放射線安全に関する）専門家ネットワークの構築を目指す。三年の研究期間内にこうした試みの是非を検証する。

教育システムの充実とは、極めて重要なポイントであるが、京都大学放射線生物研究センターで別に計画した人材育成プロジェクト（復興対策特別人材育成事業：代表：松本智裕、京都大学放射線生物研究センター・教授）で、本課題と密接に連携しつつ活動する。

これらの目的を達することにより、「リスクに関する科学技術コミュニケーション活動のネットワークを形成と運営」に関し重要な貢献が期待できる。

1. 2 企画の背景・経緯

福島原発事故によって、我が国に、突発的かつ広範囲に起きる原子力関連事故に効果的に対応できる有効なリスクコミュニケーション技術と実施体制がないことが次第に明らかとなってきた。その根本的な原因は、突発的かつ広範囲なリスク事象が生じた際のリスクコミュニケーションが平常時の科学情報コミュニケーションと様々な点で異なることが十分に理解されておらず、緊急時における情報伝達に以下に掲げる三つのポイントが押さえられていないことに原因があると考えられる。

第一に情報が伝わるために必要な条件は、伝える側の知識と価値観と受ける側の知識と価値観に大きな差がないことが必須ということが理解されていないことである。伝えたい情報に関する知識レベルが高い層の間では正確な情報が伝わりやすいが知識レベルが大きく違う場合には情報は正確に伝わりにくい。しかし、我が国では、原子力および放射線がエネルギー源や医療手段として汎用されているにもかかわらず、様々な原因からそれらの教育が公教育でほとんど取り上げられなくなってしまった。この状況を抜け出すためには、原子力及び放射線に関する基礎的知識を国民に浸透させるための教育システムの充実が極めて重要である。

第二に、情報の流し手と受け手の価値観が大幅に異なると情報が正確に伝わらないばかりか、かえって互いの不信感の増強につながるということが理解されていないことがあげられる。このことを回避するためには、互いが相手の価値観を認め合う信頼関係の構築が必須である。このことを実現する術は非常に漠然としているが、多様な価値観を認め互いに認めあう文化度の高い民族性を高めてゆく以外には無い。少なくとも大戦以前の我が国には、こうした質の高い民族性が息づいていた。

第三に情報を出す側が十分な専門性を備え、常に信頼できる情報を提供し続けることが重要である。そのためには、専門家が様々な要因に影響されず独立性・中立性を保ちながら情報提供活動をおこなう仕組みが整備されることが必須である。しかし、福島事故後、国の専門委員会あるいは科学者の情報提供は、ほとんど国民からの信頼を得ることができなかった。これは与えられた情報が科学的に間違っ

いるかどうかにはほとんど左右されない。

今回の原発事故を受けて、リスクコミュニケーションで重要な三つのポイントが、いずれもが不十分であったと推察され、その検証をおこない緊急時に役立つリスクコミュニケーション法を再構築することが必要である。そこで、本事業は、原発事故後の状況を詳細に調査し、リスクコミュニケーションに失敗した原因を探ることから、ここに示した問題点を回避しつつ、突発的なリスク事象発生時に必要な（１）リスクコミュニケーション技術の開発と独立性・中立性の高い（２）（放射線安全に関する）専門家ネットワークの整備の二点に焦点を絞り計画した。具体的には、まず、福島原発事故後の放射線の健康影響に関する科学情報コミュニケーションがどのようになされ、それがどのような結果を招いたかについて、情報の流し手（政府や専門家側）および情報の受け手（住民側）の立場から詳細に調査・解析する。そのために、専門家とともに市民活動家を含め本事業に参加する分担者で構成する「リスク研究会」を立ち上げ活動する。リスク研究会の調査成果に基づいて、突発的かつ広範囲なリスク事象を乗り越えるために必要なリスクコミュニケーション技術の開発をおこなう。

さらに、こうした活動に平行して、主として放射線の専門家で構成する「専門家ネットワーク設置研究会」を立ち上げ、リスク検討会の活動によって創造されたリスクコミュニケーションスキルを最大限に発揮し、国民の信頼を得られる（放射線安全に関する）専門家ネットワークの構築を目指す。期間内にこうした試みの是非を検証する。教育システムの充実、極めて重要なポイントであるが、京都大学放射線生物研究センターで別に計画した人材育成プロジェクト（復興対策特別人材育成事業：代表：松本智裕、京都大学放射線生物研究センター・教授）で、本課題と密接に連携しつつ活動することとした。これらの目的を達することにより、「リスクに関する科学技術コミュニケーション活動のネットワークを形成と運営」に関し重要な貢献が期待できる。

1. 3 当該年度の目標

福島原発事故後に、政府や科学者が発信した科学情報によって、国民が「リスクコミュニケーション不信」に陥った原因と経緯を詳細に解析し、突発的かつ大規模な放射線関連事故が起きた際にとるべき、リスクコミュニケーション技術の開発とともに、リスク事象発生時に、そのスキルを最大限に発揮しリスクコミュニケーション活動を独立・中立的におこなうことのできる専門家ネットワークの構築を目指す。具体には、「リスクに関する科学技術コミュニケーションのネットワーク形成支援」プログラム事務処理要領に基づき、以下の業務を実施する。

①リスクコミュニケーション技術の開発（リスク研究会分担）

a リスクコミュニケーションに関する市民意見の聴取

福島原発事故に伴って実施された「放射線の健康影響」に関連する科学情報コミュニケーションの実態を福島県およびそれ以外の地域で意見聴取会およびアンケート等の形式で継続的に一般人及び専門家から詳細に収集し解析する。

b リスクコミュニケーションに関する市民意見の解析と新技術の創出

前項の活動によって得られた解析結果をもとに、突発的かつ大規模なリスク事象発生時に有効なリスクコミュニケーション技術の開発を始める。

c リスク研究会開催

リスクコミュニケーション技術の開発活動を纏めるための会議を４回程度実施する。さらに、一回をシンポジウム形式で開催し有識者からの意見を幅広く聴取する。

②専門家ネットワークの構築（専門家ネットワーク設置研究会分担）

a 専門家ネットワーク構築のための手法探索

突発的リスク事象発生時に、いかなる組織からも独立・中立的にリスクコミュニケーション活動が出来る（放射線安全に関する）専門家ネットワーク構築の可能性および手法の検討を各業務参加者が分担しておこなう。（いわゆる日本版の国際放射線防護委員会（ICRP）あるいは電離放射線の生物学的影響に関する委員会（BEIR）の設立を模索する。）

b 専門家ネットワーク設置研究会開催

専門家ネットワークの構築活動を纏めるための会議実施する。さらに、一回をシンポジウム形式で開催し有識者からの意見を幅広く聴取する。

2. 当該年度の実施状況

①リスクコミュニケーション技術の開発（リスク研究会分担）

a リスクコミュニケーションに関する市民意見の聴取

平成24年度は、福島県内で25回、福島県から山形県へ避難している福島県民対象に山形県内で12回、関東地区で6回、関西地区で1回の計44回（第22回～66回まで）を実施し（資料5-1）し、その場で、住民と緊急時リスクコミュニケーションに関する意見交換をおこなうとともにアンケートを聴取した。回答数は、2,209件（回収率78%）であった。

b リスクコミュニケーションに関する市民意見の解析と新技術の創出

現在、平成24年度に徴収したアンケート内容の解析をおこなっている。現時点での解析結果を資料5-2に纏めた。これらの解析結果は、サイエンスアゴラ2012におけるパネル討論会（資料4-1）および日本放射線安全管理学会におけるシンポジウムで発表し、一般人及び専門家の意見を広く聴取した。今後、さらに多角的に結果を検討し、平成25年度中に効果の高い緊急時リスクコミュニケーション法を提案し、平成26年度にかけて検証する予定である。

c リスク研究会開催

平成24年度は、3回のリスク研究会を開催し、連携者による住民からの意見聴取の成果をもとに住民への緊急時情報提供法を検討した。

②専門家ネットワークの構築（専門家ネットワーク設置研究会分担）

a 専門家ネットワーク構築のための手法探索

日本版の国際放射線防護委員会（ICRP）あるいは電離放射線の生物学的影響に関する委員会（BEIR）の設立の具体的手段の検討を始めた。

b 専門家ネットワーク設置研究会開催

平成24年度は、都合4回の専門家ネットワーク設置研究会を開催した。住民のアンケート結果を見ると科学者の中立的立場による情報提供が、福島原発事故後の緊急時コミュニケーションで大きな役割を果たしたことが推測される。このことは、国や産業界から独立して機能する科学者ネットワークの重要性を指名しており、本事業を提案時に掲げた目的が間違っていないことを意味する。

さらに、専門家ネットワークが機能するための要件を検討し、（1）科学者としての知識の向上と常識力の鍛錬、（2）科学者の責任の自覚、（3）科学者ネットワーク運用実態の提案、等が必要であると結論した。そのためには、為政者（国）からも住民からも専門家集団として認知されるためには、平時から、積極的に科学情報伝達活動（講演会、教育支援など）をおこない、国民の幅広い信頼を得ることが重要と結論した。この目的を達するためには、10年単位の時間が必要であると予想し、平成25年度には、具体的活動を始める。

3. 当該年度の成果及び波及効果

平成24年度は、実質、平成24年9月から半年余りの短期間であったが、緊急時のリスクコミュニケーションに必要な条件についてかなり詳細な情報収集ができた。そして、その成果は、下図に示す本支援事業開始時に我々が提案した①リスクコミュニケーション技術の開発と②専門家ネットワークの構築、が極めて重要な視点であることを再認識させるものであった。当初の目的を完全に達成したと判断する。平成26年度までの3年間で、実効性の高い緊急時リスクコミュニケーションシステムを完成させることができると判断している。

このことは、我が国に欠けている危機管理理念と具体的システムの再構築に資するものである、

4. 今後の課題と展開

福島原発事故後、我々の本事業を含め、多く調査結果が、我が国に緊急時にうまく働くリスクコミュニケーションシステムが無いことを指摘している。我々の事業成果の分析からも、その原因は多岐に渡ることが明確に判るが、特に（１）国の政治体制の不備、（２）地方自治体の業務体制の不備、（３）教育体制の不備、（４）情報伝達体制の不備、（５）日本人のモラルの低下などは早急に改善せねばならない事象である。特に、国民全体に蔓延する（１）基礎知識不足と（２）専門性軽視の風潮は、我が国の国のあり方の不透明さを作り出す原因となっている。

いずれも一朝一夕に解決する問題ではないが、根本的に改善されない限り、どのようなリスクシステムを構築しても砂上の楼閣となることは間違いない。我が国がどのような国を目指すかを毎核にした上で、経済性一辺倒の価値観を脱却しない限り、我が国国民が緊急時の情報を信頼して受け入れる体制を作ることはできない。本事業では、科学者がその専門性で緊急時に果たすべき行動を希求してゆかねばならない。

5. 資料編

資料1：当該年度における活動一覧

★：当該活動に中心となって関わった機関

開催日	開催時間	活動名	開催場所	参加者数	関係機関
平成 24 年					
9月10日 ～11日	10日午後1時 ～11日正午	第1回リスク研究会および第1回専門家ネットワーク設置研究会合同会議	KKR 京都	24名	★京都大学、東京大学、東京工業大学、茨城大学、長崎大学、放射線医学総合研究所、高エネルギー加速器研究機構、公益財団法人体質研究会、公益財団法人ひと・健康・未来研究財団、NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネット、セシウムバスターズ郡山、伊達市諏訪野町内会、日本放射線影響学会
10月6日	午前10時30分 ～11時50分	第1回JSTリスクコミュニケーション事業-講演会および意見聴取会（リスク研究会担当）	福島県郡山市熱海町石筵ふれあい牧場	88名	★京都大学、東京工業大学、高エネルギー加速器研究機構、長崎大学
10月23日	午前9時30分 ～12時30分	第2回JSTリスクコミュニケーション事業-講演会および意見聴取会（リスク研究会担当）	山形市総合スポーツセンターミーティングルーム	18名	★京都大学、東京工業大学
10月24日	午前9時30分 ～12時30分	第3回JSTリスクコミュニケーション事業-講演会および意見聴取会（リスク研究会担当）	米沢市置賜総合文化センター会議室	10名	★京都大学、東京工業大学
10月29日	午後3時 ～午後6時	人材育成プロジェクト（復興対策特別人材育成事業：松本智裕教授代表）との連携会議	かんぼの宿「郡山」	38名	★京都大学、東京大学、東京工業大学、茨城大学、長崎大学、放射線医学総合研究所、高エネルギー加速器研究機構、セシウムバスターズ郡山、日本放射線影響学会

10月30日 ～31日	30日午前11時 ～31日午後3時	第2回専門家 ネットワーク 設置委員会- 専門家公開シ ンポジウム	かんぽの宿 「郡山」	66 名	★京都大学、東京大学、 東京工業大学、★茨城大 学、長崎大学、放射線医 学総合研究所、高エネル ギー加速器研究機構、セ シウムバスターズ郡山、 ★日本放射線影響学会
11月2日	午後1時35分 ～4時 35分	第4回JSTリ スクコミュニ ケーション事 業 講演会および 意見聴取会 (リスク研究 会担当)	南相馬市立石 神第二小学校	87 名	★京都大学、高エネルギ ー加速器研究機構、東京 工業大学
11月6日	午前9時30分 ～12時30 分	第5回JSTリ スクコミュニ ケーション事 業 講演会および 意見聴取会 (リスク研究 会担当)	山形市総合 スポーツセン ターミーティ ングルーム	12 名	★京都大学、高エネルギ ー加速器研究機構、放射 線医学総合研究所、東京 大学
11月7日	午前9時30分 ～12時30 分	第6回JSTリ スクコミュニ ケーション事 業 講演会および 意見聴取会 (リスク研究 会担当)	米沢市置賜総 合文化センタ ー会議室	15 名	★京都大学、高エネルギ ー加速器研究機構、放射 線医学総合研究所、東京 大学
11月10日	午後12時30分 ～2時 30分	第7回JSTリ スクコミュニ ケーション事 業/第2回リス ク研究会を兼 ねる-サイエ ンス・アゴラ	産業技術総合 研究所臨海副 都心センター 別館 11 階会 議室	80 名	★京都大学、高エネルギ ー加速器研究機構、放射 線医学総合研究所、東京 大学、茨城大学、諏訪野 町内会、NPO 法人持続可 能な社会を作る元気ネ ット、日本放射線影響学 会
11月10日	午後6時～9時	第8回JSTリ スクコミュニ ケーション事 業 講演会および 意見聴取会 (リスク研究 会担当)	郡山市愛宕地 区町内会館	32 名	★京都大学、高エネルギ ー加速器研究機構

11月17日	午後2時～4時	第9回 JST リスクコミュニケーション事業 講演会および意見聴取会（リスク研究会担当）	足立区立第十三中学校体育館	約230名	★京都大学、茨城大学、高エネルギー加速器研究機構
11月21日	午前9時半～12時半	第10回 JST リスクコミュニケーション事業 講演会および意見聴取会（リスク研究会担当）	米沢市置賜総合文化センター会議室	8名	★京都大学、福井大学、高エネルギー加速器研究機構
11月22日	午前9時半～12時半	第11回 JST リスクコミュニケーション事業 講演会および意見聴取会（リスク研究会担当）	山形市総合スポーツセンターミーティングルーム	26名	★京都大学、福井大学、高エネルギー加速器研究機構
11月25日	午後1時半～5時	第12回 JST リスクコミュニケーション事業 講演会および意見聴取会（リスク研究会担当）	七海治療院ホール	28名	★茨城大学、東京大学
12月4日	午前9時半～12時半	第13回 JST リスクコミュニケーション事業 講演会および意見聴取会（リスク研究会担当）	郡山市橘小学校	70名	★東京大学、高エネルギー加速器研究機構
12月14日	午前9時半～12時半	第14回 JST リスクコミュニケーション事業 講演会および意見聴取会（リスク研究会担当）	米沢市置賜総合文化センター会議室	12名	★京都大学、高エネルギー加速器研究機構
12月15日	午後1時～4時	第15回 JST リスクコミュニケーション事業 講演会および意見聴	山形市総合スポーツセンターミーティングルーム	18名	★京都大学、高エネルギー加速器研究機構、東京工業大学

		取会（リスク研究会担当）			
12月19日	午前9時半 ～12時半	第16回 JST リスクコミュニ ケーション 事業 講演会 および意見聴 取会（リスク 研究会担当）	山形市総合ス ポーツセンタ ーミーティン グルーム	24 名	★京都大学、東京大学、 放射線医学総合研究所
12月20日	午前9時半 ～12 時半	第17回 JST リスクコミュニ ケーション 事業 講演会 および意見聴 取会（リスク 研究会担当）	米沢市置賜総 合文化センタ ー会議室	3名	★京都大学、東京大学、 放射線医学総合研究所
12月20日	午後2時～4時	第18回 JST リスクコミュニ ケーション 事業 講演会 および意見聴 取会（リスク 研究会担当）	米沢市置賜地 区保健所会議 室	32 名	★京都大学、東京大学、 放射線医学総合研究所
12月26日 ～28日	26日午後1時 ～28日午後3 時	人材育成事業 -「被ばくの瞬 間から生涯」 を見渡す放射 線生物・医学 の学際教育へ の協同参画	千葉市放射線 医学総合研究 所研修室	43 名	★京都大学、★放射線医 学総合研究所、長崎大 学、茨城大学、福井大学
平成 25 年					
1月12日	午後1時 ～午後4時	第3回専門家 ネットワーク 設置研究会－ 公開シンポジ ウム	京都大学東京 オフィス会議 室	112 名	★京都大学、放射線医学 総合研究所、日本放射線 影響学会
1月27日	午後1時～5時	第19回 JST リスクコミュニ ケーション 事業 講演会 および意見聴 取会（リスク 研究会担当）	郡山市七仁治 療院ホール	33 名	★京都大学、東京工業大 学、茨城大学
1月28日	午後2時～4時	第20回 JST リスクコミュニ ケーション 事業 講演会	郡山市西田中 学校会議室	44 名	★京都大学、東京大学、 放射線医学総合研究所、 高エネルギー加速器研 究機構

		および意見聴取会（リスク研究会担当）			
2月6日	午後2時～4時	第21回 JST リスクコミュニケーション事業 講演会 および意見聴取会（リスク研究会担当）	郡山市薫小学校体育館	89名	★京都大学、放射線医学総合研究所、東京工業大学
2月12日	午後1時～5時	第22回 JST リスクコミュニケーション事業 講演会 および意見聴取会（リスク研究会担当）	山形県南陽市勤労者総合福祉センター	23名	★京都大学、長崎大学、東京工業大学、高エネルギー加速器研究機構
2月25日	午後6時～9時	第22回環境回復勉強会（企画者代表：森口祐一教授（東京大学））に出席し、JST リスクコミュニケーション事業で得た成果の一端を紹介し、専門家から意見聴取をおこなう。	東京都	72名	★NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネット、★京都大学
2月27日	午後6時～9時	第23回 JST リスクコミュニケーション事業	南相馬市南相馬健康福祉センター	33名	★京都大学、東京大学、高エネルギー加速器研究機構、東京工業大学
3月9日～10日	9日午後1時～10日午後3時	第4回専門家ネットワーク設置研究会および第3回リスク研究会合同会議	いわき市オーシャンホテル	25名	★京都大学、東京大学、東京工業大学、茨城大学、長崎大学、放射線医学総合研究所、高エネルギー加速器研究機構、公益財団法人体質研究会、公益財団法人ひと・健康・未来研究財団、NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネット、セシウムバスターズ郡山、伊達市諏訪野町内会、日本放射線影響学会

資料２：連携機関一覧

機関名	参画開始時期	住所
国立大学法人・茨城大学	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	茨城県水戸市
国立大学法人・東京工業大学	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	東京都目黒区
国立大学法人・福井大学	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	福井県吉田郡永平寺町
国立大学法人・長崎大学	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	長崎県長崎市
大学共同利用機構法人・高エネルギー加速器研究機構	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	茨城県つくば市
独立行政法人・放射線医学総合研究所	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	千葉県千葉市稲毛区
公益財団法人・ひと・健康・未来研究財団	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	京都府京都市中京区
公益財団法人・体質研究会	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	京都府京都市左京区
福島県伊達市諏訪野町内会	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	福島県伊達市
セシウムバスターズ郡山	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	福島県郡山市
NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	東京都新宿区
福の鳥プロジェクト	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	福島県福島市
日本放射線影響学会	事業開始時(平成 24 年 7 月 23 日)	東京都文京区

資料 3 : 外部発表等

発表年月 日	項 目	場 所	内 容
平成 24 年 10 月 31 日	ホームページ 公開		http://house.rbc.kyoto-u.ac.jp/communication/index.html 【資料 4-1 参照】
平成 24 年 11 月 10 日	サイエンスア ゴラ出典	東京	「パネル討論会-福島での活動経験から習うリスクコミュニケ ーション」【資料 4-2 参照】 サイエンスアゴラ受賞【資料 4-3 参照】
平成 24 年12月4 日～6 日	第 11 回日本放 射線安全管理 学会シンポジ ウム	大阪	福島原発事故から学ぶリスクコミュニケーションのあり方-科 学者の立場から 【資料 4-4 参照】
平成 25 年1月12 日	市民公開講座 「食卓が家族 を救う」を開催	東京	本事業による調査によって福島原発事故に酔って祖父母と父と 母子の別居家族が多く発生している。長期間にわたる別居が夫 婦離婚を生み、家族崩壊が深刻な問題になっている。そこで、 家族崩壊を回避するためのメッセージを発信することを狙って 市民公開講演会「食卓が家族を救う」を開催した。講演終了後、 パネル討論会を開催し家族関係を保つためにどうしたら良いか を参加者を交え議論した。講演及びパネル討論の内容は、小冊 子およびホームページで公開するために編纂中であり、平成 25 年 3 月末に発刊の予定である。【資料 4-5 参照】

資料4：成果資料等

資料4-1 JST リスコミプロジェクトホームページ

放射線安全確保に資するコミュニケーション技術開発と専門家ネットワーク構築

13/03/04 10:54

科学技術振興機構
放射線安全確保に資する
コミュニケーション技術開発と
専門家ネットワーク構築
プログラム

HOME

概要

参加機関一覧

情報提供（Q&A）活動

Q&A開催申し込み

意見受付

リンク集

復興対策
特別人材育成事業

放射線安全確保に資する
コミュニケーション技術開発と
専門家ネットワーク構築

新着ニュース
新着ニュース一覧

2012年11月1日 ホームページを開設いたしました。

活動トピックス
活動トピックス一覧

2012年11月10日 パネル討論会「福島での活動経験から習うリスクコミュニケーション」開催
（11月10日 東京：産業技術総合研究所臨海副都心センター別館）

2012年11月1日 市民公開講座「食事が健やかな家族を創る」開催（予定）
（平成25年1月11日 東京：京都大学東京オフィス）

サイトマップ
お問い合わせ

Copyright(C)2012
「放射線生物研究センター」
All Rights Reserved.



サイエンス・アゴラ 2012
パネル討論会

福島での活動経験から習うリスクコミュニケーション

開催日時：平成 24 年 11 月 10 日（土） 午後 12 時 30 分～午後 2 時 30 分
開催場所：産業技術総合研究所臨海副都心センター別館 11 階
多目的室／会議室 1 小間 No Bb603
開催形態：パネル討論会
企画者：日本放射線影響学会・福島原発事故対応委員会
協賛者：ひと・健康・未来研究財団、放射線影響学会、科学技術振興機構

【開催趣旨】

福島原発事故後に明らかになった緊急時のリスクコミュニケーションの不都合点を様々な視点で洗い出し、その問題点を纏め、改善案を提案する切っ掛けとする。

【話題提供者】

司会：渡邊正己（京都大学 名誉教授）

1. 科学者の立場からの発言

田内広（茨城大学・理学部 教授）15 分間

2. 一般市民の立場からの発言

馬目与市（伊達市諏訪野町内会・安全防災役員）15 分間

3. ジャーナリストの立場からの発言

斗ヶ沢秀俊（毎日新聞 水と緑の地球環境本部 本部長）15 分間

4. 現場医師の立場からの発言

長谷川有史（福島県立医科大学・救急医療学講座 助教）15 分間

【パネル討論】：60 分間

福島におけるリスクコミュニケーションの失敗はなにが問題であったか？

【司会】

渡邊正己（京都大学名誉教授、放射線生物学研究センター）

【パネリスト】

1. 田内広（茨城大学・理学部・教授、日本放射線影響学会福島原発対応委員会委員長）
2. 馬目与市（伊達市・諏訪野地区・防災委員会委員長）
3. 斗ヶ沢秀俊（毎日新聞・水と緑の地球環境本部・本部長）
4. 長谷川有史（福島県立医科大学・救急医療学講座・助教）
5. 宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師、日本放射線影響学会 Q&A 対応委員）
6. 鬼沢良子（NPO 法人 持続可能な社会を作る元気ネット）





市民公開講演会 食卓が家族を救う

2013年1月12日(土) 京都大学・東京オフィス会議室
午後1時～4時

【講演内容】

食事が家族を結びつける
山極壽一（京都大学・理学研究科・教授）
トマトが赤くなると医者が青くなる
河田照雄（京都大学・農学研究科・教授）
食事が環境ストレスから体を守る
渡邊正己（京都大学・名誉教授）

【パネル討論】

家族で摂る食事が日本を救うか？
司会：江口敏（フリージャーナリスト）
パネリスト：山極壽一、河田照雄、渡邊正己

【参加費】

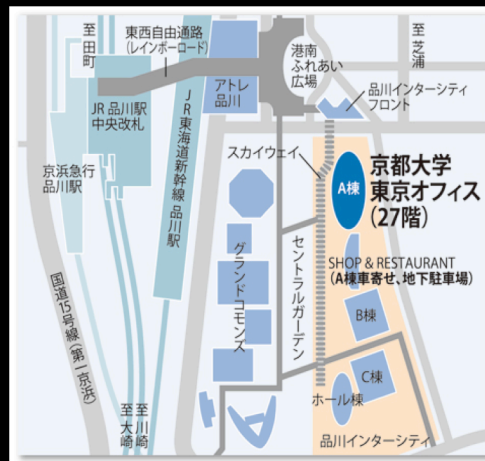
無料（定員：先着120名）

【参加受付】

京都大学放射線生物研究センター
下記のメールアドレスあるいはファクシミリ
番号へお申し込みください。（担当：渡邊）
uketsuke@rbnet.jp fax.075-753-7568 URL: <http://rbnet.jp/shoku.html>

【共催】

京都大学、公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団、科学技術振興機構
日本放射線影響学会



〒108-6027
東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟27階
TEL: 03-5479-2220 FAX: 03-5479-2221



山極 壽一
JUICHI YAMAGIWA
昭和27年東京都生
京都大学教授

京都大学大学院理学研究科修了。理学博士。専門は人類学、霊長類学。類人猿の行動や生態をもとに、人類に特有な社会特徴の由来を探っている。JST/JICAの国際科学技術協力「野生生物と人間の共生を通じた熱帯林の生物多様性保全」の代表。著書に「暴力はどこからきたか」（NHKブックス）、「家族進化論」（東京大学出版会）など。



河田 照雄
TERUO KAWADA
昭和28年京都府生
京都大学教授

京都大学大学院農学研究科修了。農学博士。専門は、食品健康科学。食品による生体調節機能、とりわけ肥満や生活習慣病、メタボリックシンドロームに対する食品の作用について研究を行ってきた。生き物と食べ物と健康の視点から現代の食や農業を考究したいと願っている。日本肥満学会常務理事。著書に「脂肪の功罪と健康」など。



渡邊 正己
MASAMI WATANABE
昭和23年岐阜県生
京都大学名誉教授

金沢大学大学院薬学研究科修了。薬学博士。専門は、放射線による細胞がん化機構の研究。発がんはDNA損傷を起源とする経路の他に、DNA損傷を起源としない経路があり、後者が圧倒的主経路であるとする新説を提唱。福島原発事故後、国民に対する放射線健康影響のQ&A講演会を主催し、平成24年11月末までに53回を実施。



江口 敏
TSUTOMU EGUCHI
昭和22年岐阜県生
フリージャーナリスト

一橋大学社会学部卒業。月刊誌「実業界」「ビッグエー」「花も嵐も」「財界につぼん」「マチュアライフ」等で編集を担当。その間、評論家・故草柳大蔵氏に師事。現在、フリージャーナリスト・編集者として、主に政治・経済関係の取材・インタビューに携わっている。著書に『志に生きる！―昭和傑物伝―』（清流出版）がある。

【開催趣旨】

我が国では、高度成長期以降、核家族化が進むとともに父親不在の家庭が多くなってきているといわれ、そのことが、我が国の家族制度を崩壊させ、ひいては社会構造に深刻な歪みをもたらしていると考えられています。特に、平成23年3月11日の東日本大震災およびそれに引き続き起きた福島原発事故によって多くの家族が離散しています。加えて、放射能汚染による食に対する根強い不安が家族崩壊に拍車をかけていると指摘されています。こうした背景にあって、今回の市民公開講演会は、長年にわたりゴリラ社会における家族研究で世界をリードしてきた動物行動学者、山極壽一の「家族の基盤は一緒に食事をとることにある」という主張を基調として、農学者の河田照雄がヒトの健康に役立つ食品に関する情報、生物学者の渡邊正己が食によるストレス応答機能活性化に関する情報を提供し、食を介して我が国において健やかな家族形態を取り戻すためのメッセージを発信するために企画しました。

【スポンサーシップ】

この講演会は独立行政法人科学技術振興機構の平成24年度科学技術コミュニケーション推進事業「リスクに関する科学技術コミュニケーションのネットワーク形成支援」プログラムおよび公益財団法人ひと・健康・未来研究財団の平成24年度福島原発事故支援プロジェクトの支援を受けて実施しています。

URL:<http://rbnet.jp/shoku.html>

資料5：その他資料

資料5-1 平成24年度JSTリスコミ支援事業で実施した放射線の健康影響に関するQ&A講演会開催記録

福島原発対応検討会
放射線健康影響説明Q&A講演会
(平成24年4月～平成25年3月)
(URL : <http://rbnet.jp>)

【平成24年度-Q&A講演会担当者】

宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師）
柿沼志津子（放射線医学総合研究所・研究リーダー）
小松 賢志（京都大学・放射線生物研究センター・教授）
島田 義也（放射線医学総合研究所・プロジェクトリーダー）
鈴木 啓司（長崎大学・医歯薬学総合研究科・准教授）
高田 穰（京都大学・放射線生物研究センター・教授）
松田 尚樹（長崎大学・先端生命科学研究支援センター・教授）
松本 英樹（福井大学・高エネルギー医学研究センター・准教授）
松本 義久（東京工業大学・原子炉工学研究所・物質工学部門・准教授）
松本 智裕（京都大学・放射線生物研究センター・教授）
田内 広（茨城大学・理学部・理学科 生物科学コース・教授）
立花 章（茨城大学・理学部・理学科 生物科学コース・教授）
富田 悟（東京工業大学・放射線総合センター・助教）
三谷 啓志（東京大学・大学院新領域創成科学研究科・教授）
渡邊 正己（京都大学・放射線生物研究センター・特任教授）-代表世話人

【スポンサーシップ】

科学技術振興機構、公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団、日本コルマー株式会社】

【開催記録】

第22回 放射線影響解説勉強会「放射線の人体影響」

日 時：平成24年4月22日 午後1時～午後5時
会 場：株式会社福島県折込広告社会議室 聴講者：45名（一般市民）
世話人：郡山の放射能を除去する会（大川原順一、根本昇）
講 師：松田尚樹（長崎大学・教授）、渡邊正己（京都大学・教授）

第23回 放射線影響解説セミナー「放射線の人体影響」

日 時：平成24年4月22日 午後1時～午後5時
会 場：オステオパシー研究所 聴講者：40名（一般市民）
世話人：セシウムバスターズ郡山（代表：七海仁一）
講 師：田内広（茨城大学・教授）、松本義久（東京工業大学・准教授）

第24回 放射線影響解説セミナー「放射線の人体影響」

日 時：平成24年4月25日 午後1時～午後5時
会 場：富士通テン株式会社

聴講者：神戸市（兵庫県）、小山市（栃木県）、中津川市（岐阜県）を結んだ映像中継で98名
世話人：富士通テン労働組合（代表：川崎裕二郎）
講師：渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 25 回 放射線影響解説セミナー「放射線の人体影響」

日時：平成 24 年 5 月 15 日（火）午前 10 時 30 分～午後 2 時 30 分
会場：相馬市相馬松川浦温泉・ホテル飛天 聴講者：40 名（一般市民）
世話人：福島県女性経営者プラザ（代表：副会長 紺野涼）
講師：松本義久（東京工大・准教授）、松本英樹（福井大・准教授）、渡邊正己（京都大・名誉教授）

第 26 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日時：平成 24 年 5 月 22 日（火）午後 3 時 30 分～6 時 30 分
会場：郡山市 福島県 LP ガス協会郡山支部会議室 聴講者：45 名（一般市民）
世話人：福島県 LP ガス協会郡山支部（代表：支部長、櫛田忠男 担当、矢内）
講師：宇佐美徳子（高工ネ研・講師）、三谷啓志（東京大学・教授）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 27 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日時：平成 24 年 5 月 29 日（火）午後 5 時～8 時
会場：三基郡山事務所会議室 聴講者：60 名（女性）
世話人：鈴木智雄
講師：島田義也（放射線医学総合研究所・グループ長）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 28 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日時：平成 24 年 5 月 29 日（火）午後 6 時～8 時まで
会場：喜久田町南東北卸センター会議室 聴講者：43 名（一般市民）
世話人：春日 隆
講師：宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師）、松本義久（東京工業大学・准教授）

第 29 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日時：平成 24 年 6 月 22 日（金）15 時～16 時 30 分（90 分）
会場：福島県西白河郡矢吹町立善郷小学校会議室 聴衆者：103 名
世話人：森尾絢子
講師：三谷啓志（東京大学・教授）、松本義久（東京工業大学・准教授）

第 30 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日時：平成 24 年 6 月 30 日（土）午後 1 時 30 分～4 時
会場：華松きもの着付学院『かまわぬ』 聴講者：45 名（一般市民、主婦・母親）
世話人：本田康二
講師：田内広（茨城大学・教授）、島田義也（放射線医学総合研究所・プロジェクトリーダー）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 31 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日時：平成 24 年 7 月 4 日（水）午後 5 時～8 時
会場：郡山市安積町 商工会会議所 聴講者：63 名（一般市民、主婦・母親）
世話人：安積町商工会 根本 昇
講師：松本義久（東京工業大学・准教授）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 32 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 7 月 8 日（日）午後 1 時～5 時

会 場：オステオパシー研究所・七仁治療院 聴講者：55 名（一般市民、主婦・母親）

世話人：セシウムバスターズ郡山（七海仁一）

講 師：松本英樹（福井大学・准教授）、田内広（茨城大学・教授）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）、
オブザーバー：原田浩（京都大学）

第 33 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 7 月 22 日（日）午後 1 時 30 分～3 時 30 分

会 場：福島市コラッセふくしま 聴講者：61 名（一般市民、主婦・母親）

世話人：福の鳥プロジェクト 事務局 谷口宏子

講 師：立花章（茨城大学・教授）、宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師）、渡邊正己（京
都大学・名誉教授）、オブザーバー：桂真理（東京大学）

第 34 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 7 月 23 日（月） 13：00～16：00

会 場：郡山ヘアメイクカレッジ会議室 聴講者：52 名

担当者：小野寺 広美

講 師：宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）
オブザーバー：中村麻子（大阪医科大学）

第 35 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 8 月 26 日（日） 午後 1 時 30 分～4 時 30 分

会 場：一般社団法人つきだて振興公社つきだて花工房 聴講者：69 名（主婦・母親）

世話人：つきだて花工房交流課企画主任・金澤顕治

講 師：松田尚樹（長崎大学・教授）、三谷啓志（東京大学・教授）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）、
オブザーバー：高橋昭久（群馬大学）

第 36 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 9 月 23 日（日） 午後 1 時～4 時 30 分

会 場：七仁治療院 聴講者：43 名（一般市民、主婦・母親）

世話人：セシウムバスターズ郡山（七海仁一）

講 師：松本義久（東京工業大学・准教授）、田内広（茨城大学・教授）、渡邊正己（京都大学・名誉
教授）

第 37 回 放射線影響解説セミナー「地場産品、食の交流会」

日 時：平成 24 年 10 月 6 日（土） 午前 10 時 30 分～午後 2 時

会 場：郡山石筴ふらあい牧場 聴講者：88 名（一般市民）

世話人：郡山中小企業家同友会、政策復興委員会・委員長：堀光俊

講 師：宇佐美徳子（高エネ研・講師）、松本義久（東京工大・准教授）、松田尚樹（長崎大・教授）、
渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 38 回 放射線影響解説セミナー「聞きたい、知りたい、食品と放射性物質」

日 時：平成 24 年 10 月 20 日（土） 午後 1 時 30 分～4 時 30 分

会 場：座・高円寺 聴講者：256 名

世話人：杉並区・杉並保健所、杉並区食品衛生協会

講 師：渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 39 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 10 月 23 日（火）午前 9 時 30 分～12 時 30 分

会 場：山形市総合スポーツセンター・ミーティングルーム 聴講者：18 名（福島県避難者）

世話人：山形県庁・神田善弘、山形市避難者交流支援センター・遠藤悟

講 師：渡邊正己（京都大学・名誉教授）、松本義久（東京工業大学・原子炉工学研究所・准教授）、
富田悟（東京工業大学・放射線総合センター・助教）

第 40 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 10 月 24 日（水）午前 9 時 30 分～12 時 30 分

会 場：米沢市置賜総合文化センター・会議室 聴講者：10 名（福島県からの避難者）

世話人：山形県庁・神田善弘、米沢市避難者支援センター・上野寛

講 師：渡邊正己（京都大学・名誉教授）、松本義久（東京工業大学・原子炉工学研究所・准教授）、
富田悟（東京工業大学・放射線総合センター・助教）

第 41 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：10 月 25 日（木）午前 10 時 45 分～午前 11 時 45 分

会 場：郡山第六中学校体育館 聴講者：818 名（郡山第六中学校学生）

世話人：佐藤尚子

講 師：宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 42 回 放射線影響解説セミナー「低線量被ばくの健康影響」

日 時：平成 24 年 11 月 1 日（木）午後 2 時～4 時

会 場：めぐろパーシモンホール小ホール 聴講者：188 名

世話人：目黒区・杉並保健所、消費者庁、杉並区食品衛生協会

講 師：渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 43 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：11 月 2 日（金）10 時 20 分～11 時 05 分

会 場：南相馬市立真野小学校 聴講者：南相馬市立真野小学校 1 年生～3 年生 28 名

世話人：南相馬市教育委員会学校教育課 指導主事 伏見 康弘

講 師：宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構）、富田悟（東京工業大学・助教）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 44 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：11 月 2 日（金）11 時 15 分～12 時

会 場：南相馬市立真野小学校 聴講者：南相馬市立真野小学校 4 年生～6 年生 26 名

世話人：南相馬市教育委員会学校教育課 指導主事 伏見 康弘

講 師：宇佐美徳子（高エネ研・講師）、富田悟（東京工業大学・助教）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 45 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：11 月 2 日（金）13 時 35 分～14 時 35 分

会 場：南相馬市立石神第二小学校 聴講者：南相馬市立石神第二小学校保護者会 87 名

世話人：南相馬市教育委員会学校教育課 指導主事 伏見 康弘

講 師：宇佐美徳子（高エネ研・講師）、富田悟（東京工業大学・助教）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 46 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 11 月 6 日（火）午前 9 時 30 分～12 時 30 分
会 場：山形市総合スポーツセンター・ミーティングルーム 聴講者：12 名（福島県避難者）
世話人：山形県庁・神田善弘、山形市避難者交流支援センター・遠藤悟
講 師：宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構）、柿沼志津子（放射線医学総合研究所・チームリーダー）、三谷啓志（東京大学・教授）渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 47 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」（予定）

日 時：平成 24 年 11 月 7 日（水）午前 9 時 30 分～12 時 30 分
会 場：米沢市置賜総合文化センター・会議室 聴講者：15 名（福島県避難者）
世話人：山形県庁・神田善弘、米沢市避難者支援センター・上野寛
講 師：宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師）、柿沼志津子（放射線医学総合研究所・チームリーダー）、三谷啓志（東京大学・教授）渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 48 回 サイエンスアゴラパネル討論会「福島での活動経験から習うリスクコミュニケーション」

日 時：平成 24 年 11 月 10 日（水）12 時 30 分～14 時 30 分
会 場：産業技術総合研究所臨海副都心センター別館 多目的室 聴講者：80 名（一般市民）
世話人：日本放射線影響学会、科学技術振興機構
講 師：田内広（茨城大学・教授）、宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師）、斗ヶ沢秀俊（毎日新聞）、馬目余市（伊達市）、鬼沢良子（NPO 法人）、宇佐美徳子、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 49 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 11 月 10 日（水）18 時～22 時
会 場：郡山市愛宕地区町内会館 聴講者：32 名（愛宕地区住民会）
世話人：猪腰幸夫
講 師：宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 50 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 11 月 17 日（土）14 時～16 時
会 場：足立区立第十三中学校 体育館
聴講者：足立区立第十三中学校、足立区立中川北小学校、足立区立六木小学校の三校連絡会議および学校協議会。230 名（父兄および学校関係者）
世話人：星野吉久
講 師：宇佐美徳子（高エネ研・講師）、田内広（茨城大学・教授）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 51 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 11 月 21 日（水）午前 9 時 30 分～12 時 30 分
会 場：米沢市置賜総合文化センター 会議室 聴講者：8 名（福島県からの避難者）
世話人：山形県庁・神田善弘、米沢市避難者支援センター・上野寛
講 師：宇佐美徳子（高エネ研・講師）、松本英樹（福井大学・准教授）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 52 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」

日 時：平成 24 年 11 月 22 日（木）午前 9 時 30 分～12 時 30 分
会 場：山形市総合スポーツセンター・ミーティングルーム 聴講者：26 名（福島県避難者）
世話人：山形県庁・神田善弘、山形市避難者交流支援センター・遠藤悟
講 師：宇佐美徳子（高エネ研・講師）、松本英樹（福井大学・准教授）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 53 回 放射線影響解説セミナー「放射線の健康影響」(予定)

日 時：平成 24 年 11 月 25 日(日) 午後 1 時 30 分～5 時

会 場：七仁治療院治療室 聴講者：28 名

世話人：七海仁一

講 師：田内広(茨城大学・教授)、三谷啓志(東京大学・教授)

第 54 回 放射線影響解説セミナー「低線量被ばくの健康影響」

日 時：平成 24 年 12 月 4 日(木) 午後 3 時～4 時

会 場：郡山市橘小学校 聴講者：小学校 PTA 40 名

世話人：郡山市役所原子力対策室、浅間陽一

講 師：三谷啓志(東京大学・教授)、宇佐美徳子(高エネルギー加速器研究機構・講師)

第 55 回 放射線影響解説セミナー「低線量被ばくの健康影響」

日 時：平成 24 年 12 月 6 日(木) 午後 2 時～4 時

会 場：大田区民ホールアブリコ小ホール 聴講者：187 名

世話人：大田区教育委員会・竹田

講 師：渡邊正己(京都大学・名誉教授)

第 56 回 放射線影響解説セミナー「低線量被ばくの健康影響」

日 時：平成 24 年 12 月 13 日(木) 午後 2 時～4 時

会 場：東京都小平市役所会議室 聴講者：小平市栄養士 45 名

世話人：小平市立小平第十三小学校 栄養士 小島智美

講 師：渡邊正己(京都大学・名誉教授)

第 57 回 福島原発事故後の状況を理解し健康影響を避けるため勉強会

日 時：平成 24 年 12 月 14 日(金) 午前 9 時 30 分～12 時 30 分

会 場：米沢市置賜総合文化センター・会議室 聴講者：12 名(福島避難者など)

講 師：宇佐美徳子(高エネルギー加速器研究機構・講師)、渡邊正己(京都大・名誉教授)

第 58 回 福島原発事故後の状況を理解し健康影響を避けるため勉強会

日 時：平成 24 年 12 月 15 日(土) 午後 1 時～4 時

会 場：山形市総合スポーツセンター・ミーティングルーム 聴講者：18 名(福島避難者)

講 師：松本義久(東京工業大学・准教授)、宇佐美徳子(高エネルギー加速器研究機構・講師)、渡邊正己(京都大学・名誉教授)

第 59 回 福島原発事故後の状況を理解し健康影響を避けるため勉強会

日 時：平成 24 年 12 月 19 日(水) 午前 9 時 30 分～12 時 30 分

会 場：山形市総合スポーツセンター・ミーティングルーム 聴講者：24 名(福島避難者)

講 師：柿沼志津子(放医研・チームリーダー)、三谷啓志(東京大学・教授)、渡邊正己(京都大学・名誉教授)

第 60 回 福島原発事故後の状況を理解し健康影響を避けるため勉強会

日 時：平成 24 年 12 月 20 日(木) 午前 9 時 30 分～12 時 30 分

会 場：米沢市置賜総合文化センター・会議室 聴講者：3 名(福島避難者)

講 師：柿沼志津子(放医研・チームリーダー)、渡邊正己(京都大学・名誉教授)

第 61 回 放射線影響解説セミナー「低線量被ばくの健康影響」

日 時：平成 24 年 12 月 20 日（木）午後 2 時～4 時
会 場：米沢市置賜総合文化センター会議室 聴講者：32 名（保健婦、避難者支援者）
世 話 人：置賜地区保健所
講 師：柿沼志津子（放医研・チームリーダー）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 62 回 放射線影響解説セミナー

日 時：平成 25 年 1 月 27 日（日）午後 1 時～5 時
会 場：七仁治療院ホール 聴講者：33 名
世 話 人：七仁治療院（七海仁一）
講 師：田内広（茨城大学・教授）、松本義久（東京工業大学・准教授）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）、オブザーバー：大川あおい（東京工大・大学院生）

第 63 回 放射線影響解説セミナー

日 時：平成 25 年 1 月 28 日（月）午後 2 時 30 分～4 時 30 分
会 場：西田中学校
聴 講 者：西田中学校校区の PTA 合同家庭教育学級、（西田中、高野小、鬼生田小、三町目小、大田小、根小屋小）小学校保護者、中学校保護者および小中学校の教職員など総計 44 名。
世 話 人：郡山市教育支援センター（指導主事：安田良一）
講 師：宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究所・講師）、三谷啓志（東京大学・新領域創成科学研究科・教授）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）、オブザーバー：平山亮一（放射線医学総合研究所・研究員）、大川あおい（東京工業大学・大学院生）

第 64 回 放射線影響解説セミナー

日 時：平成 25 年 2 月 6 日（水）午後 2 時 20 分～3 時 20 分
会 場：薫小学校体育館 聴講者：89 名（薫小学校新入生父兄）
世 話 人：郡山市教育委員会（安田良一）
講 師：富田悟（東京工業大学・放射線総合センター・助教）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）
オブザーバー：松本孔貴（放射線医学総合研究所・研究員）

第 65 回 放射線影響解説セミナー

日 時：平成 25 年 2 月 12 日（火）午後 1 時～5 時
会 場：南陽市勤労者総合福祉センター 聴講者：23 名（置賜復興ボランティア）
世 話 人：奥山雅廣（高德寺）
講 師：宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師）、松田尚樹（長崎大学・先端生命科学研究支援センター・教授）、富田悟（東京工業大学・放射線総合センター・助教）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

第 66 回 放射線影響解説セミナー

日 時：平成 25 年 2 月 27 日（火）午後 5 時～8 時
会 場：南相馬市市役所会議室 聴講者：南相馬市市役所職員
世 話 人：大石万里子
講 師：宇佐美徳子（高エネルギー加速器研究機構・講師）、富田悟（東京工業大学・放射線総合センター・助教）、三谷啓志（東京大学・）、渡邊正己（京都大学・名誉教授）

**資料 5-2 平成 24 年度 JST リスコミ支援事業で実施した緊急時リスコミの実態に関するアンケート内
容**

質 問 表

（もっとも貴方のお考えに近い回答例の数字に○を付けてください。理由を尋ねる質問には、簡単に記載してください。答えにくい質問は、無視して頂いて結構です。この質問表は、お帰りの際、受付担当へお渡しください。）

1.貴方についての情報をお聞かせください。

質問 1 貴方の性別は？

1. 男 2. 女

質問 2 貴方の年齢は？

1. 9歲以下 2. 10代 3. 20代 4. 30代 5. 40代 6. 50代 7. 60代 8. 70歲以上

質問 3 貴方の職業は？

- 1.会社員 2.公務員 3.自営業 4.農業 5.水産業、6.主婦 7.教員 8.医師 9.報道関係
10.研究者 11.その他（ ）

質問 4 貴方の家族構成は？

- | | | |
|---------------|-------|-------|
| 3-1 配偶者 | 1. あり | 2. 無し |
| 3-2 父 母 | 1. あり | 2. 無し |
| 3-3 子 供 | 1. あり | 2. 無し |
| 3-4 10 歳以下の子供 | 1. あり | 2. 無し |

質問 5 貴方の福島原発事故時の住所は？

1. 福島県内（市町村名： ）
2. それ以外（県名： ）

質問 5 現在、原発事故が原因で避難されていますか？

1. 避難していない
2. 避難している（避難地名： ）

質問 6 避難している理由をお聞かせください。

1. 行政からの指示により避難している
2. 自主的に避難している

質問7 自主的に避難しておられる方は、避難を決断された理由はなにですか？

1. 放射線被ばくの増加が危険と思うから 2. 子供の放射線被ばくの増加が危険と思うから
3. 生活環境が壊れているから 4. 仕事がないから
5. その他 ()

質問 8 現在までの対応をとる際に、判断のもととなった主な情報源は何でしたか？

1. 政府からの情報 2. 自治体からの情報 3. マスコミからの情報 4. 科学者からの情報
5. 家族からの情報 6. 友人からの情報 7. 自分の知識
8. その他（ ）

質問 9 質問 8 に関して、きっかけとなる具体的な出来事があれば 3 つあげてください。

例：政府参与の 1mSv を巡る辞任会見、科学者の講演会など

- 9-1 ()
- 9-2 ()
- 9-3 ()

2. 貴方の原子力や放射線の知識についてお聞かせください

質問 10 貴方は、これまでに放射線や原子力のことを学校で学びましたか？

1. 学んだ 2. 少し学んだ 3. 学ばなかった 4. 全く学ばなかった

質問 11 学んだ方はどこで学びましたか？

1. 小学校 2. 中学校 3. 高等学校 4. 大学 5. 大学院 6. その他

質問 12 貴方自身は、原子力や放射線の知識を充分持っていると思いますか？

1. そう思う 2. ある程度そう思う 3. そう思わない 4. 全くそう思わない

質問 13 貴方は、原子力や放射線に対してどの程度関心を持っていましたか？

1. 大いに関心を持っていた 2. 多少関心を持っていた 3. ほとんど関心はなかった
4. 全く関心はなかった

問題 14 原子力や放射線の利用で関心を持っていたものはなにですか？

1. エネルギー源 2. 病気の診断 3. 病気の治療 4. 工業利用 5. 研究利用
6. 核兵器 7. その他 ()

質問 15 貴方は、いままで、今回のような原発事故が起きることを予想していましたか？

1. 大いに予想していた 2. 多少予想していた 3. 予想していなかった
4. 全く予想していなかった

3. 福島原発事故後の科学情報の入手状況についてお尋ねします

質問 16 福島原発事故後において、放射線の健康影響に関する科学的な情報は充分の量であったと思いますか？

1. 充分 2. やや不足 3. 不足 4. 全く不足

質問 17 福島原発事故後に提供された放射線の健康影響に関する科学的な情報は充分な質であったと思いますか？

1. 充分 2. やや不十分 3. 不十分 4. 全く不十分

質問 18 福島原発事故後、放射線の健康影響についての情報源はどれでしたか？（複数回答可）

1. 政府関係者 2. 自治体関係者 3. 科学者 4. 学術団体 5. 国際機関（ICRP など） 6. 友人 7. 家族
8. 噂 9. 自分自身 10. 医師 11. 教員 12. マスコミ
13. その他 ()

質問 19 質問 18 について信頼できた情報源および信頼できなかった情報源をそれぞれ順番に三つ番号でお答えください。

16-1 信頼できた情報源 : 1 位. () 2 位. () 3 位. ()

16-2 信頼できなかった情報源 : 1 位. () 2 位. () 3 位. ()

質問 20 質問 19 の問いに関して信頼できたあるいは信頼できなかった具体的な理由があればお教えてください。

質問 21 放射線の健康影響についての情報をどのような媒体（手段）から得ましたか？

1. ホームページ 2. 公的刊行物 3. TV 4. ラジオ 5. 新聞 6. 本 7. 週刊誌 8. ブログ
9. ツイッターや Face book 10. 口コミ 11. 講演会
12. その他 ()

質問 22 質問 21 について信頼ある情報が得られた情報媒体および信頼できなかった情報媒体をそれぞれ順番に三つ番号でお答えください。

18-1 信頼できた情報媒体 : 1 位. () 2 位. () 3 位. ()

18-2 信頼できなかった情報媒体 : 1 位. () 2 位. () 3 位. ()

質問 23 質問 22 の問いに関して信頼できたあるいは信頼できなかった具体的な理由があればお教えてください。

ださい。

4. インターネットなど電子媒体によって流された情報は役に立ちましたか？

質問 24 一般的にインターネットによって流された情報は役に立ちましたか？

1. 大いに役に立った 2. 役に立った 3. あまり役に立たなかった 4. 全く役に立たなかった

質問 25 インターネットによる情報提供が役に立ったと思われる方はその理由は何ですか？

1. 簡単に情報が手に入るから 2. 判りやすいから 3. 信頼できるから 4. 他に情報が得られないから 5. その他（ ）

質問 26 インターネットによる情報提供が役に立たなかったと思われる方はその理由は何ですか？

1. 情報が得にくいから 2. 難しいから 3. 信頼できないから 4. 他に情報が得る良い方法があるから 5. その他（ ）

質問 27 ツイッターや Face Book などによる情報提供は役に立ちましたか？

1. 大いに役に立った 2. 役に立った 3. あまり役に立たなかった 4. 全く役に立たなかった

質問 28 ツイッターや Face Book などによる情報が役に立った方はその理由は何ですか？

1. 簡単に情報が手に入るから 2. 判りやすいから 3. 信頼できるから 4. 他に情報が得られないから 5. その他（ ）

質問 29 ツイッターや Face Book などによる情報が役に立たなかった方はその理由は何ですか？

1. 情報が得にくいから 2. 内容が難しいから 3. 信頼できないから 4. 他に情報が得る良い方法があるから 5. その他（ ）

質問 30 福島原発事故後に流された情報に含まれた言葉や単語で理解が難しかったものを五つつあげてください。例えば、リスク、ベントなど。

- (1.) (2.) (3.) (4.) (5.)

5. 情報の内容についてお答えください。

質問 31 なにについての情報が欲しかったですか？

- (1.) (2.)
(3.) (4.)
(5.)

6.今日の講演会についてお答えください

質問 32 今日の講演会（勉強会）は役に立ちましたか？

1. 大いに役に立った 2. 役に立った 3. あまり役に立たなかった 4. 全く役に立たなかった

質問 33 役に立った方へ：その理由は何ですか？

1. 判りやすかったから 2. 講師が信頼できたから 3. 自分が同意できる内容だったから 4. その他（ ）

質問 34 役に立たなかった方へ：その理由は何ですか？

1. 難しかったから 2. 講師が信頼できなかったから 3. 自分が同意できる内容でなかったから 4. その他（ ）

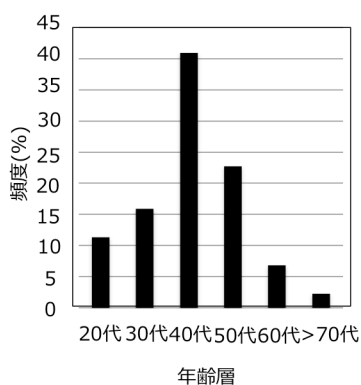
質問 35 今回の様な緊急時にはどのような形式の情報提供が一番良いと思いますか？

7. 最後に、緊急時の科学情報提供についてご意見、ご希望があれば何でも遠慮なくお書きください

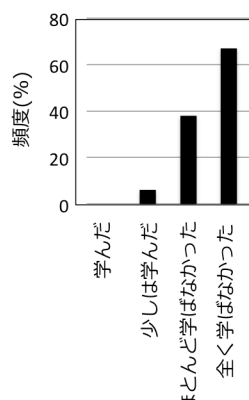
ご協力有難うございました。
お帰りの際、受付にご提出ください。

緊急時リスクコミュニケーションに関するアンケート

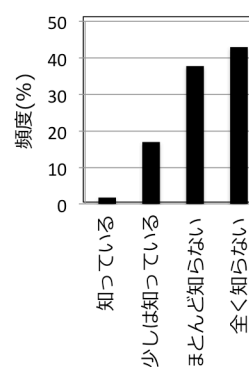
回答者の年齢構成(n=2,209)



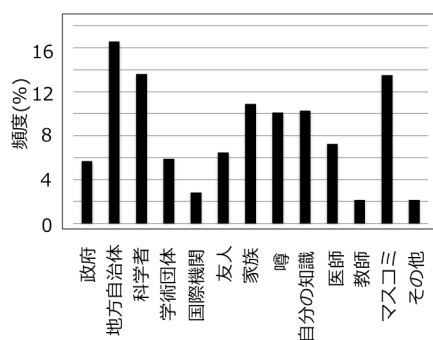
原子力や放射線に関する教育を受けたかどうか？



原子力や放射線のことを知っているか？



情報源



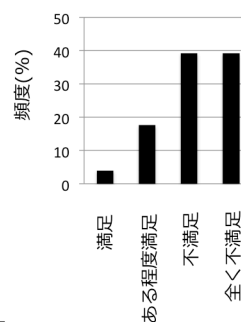
○信頼できた情報源

1. 科学者(20%)
2. 地方自治体(16%)
3. 医師(13%)
4. マスコミ(10%)
5. 家族(10%)

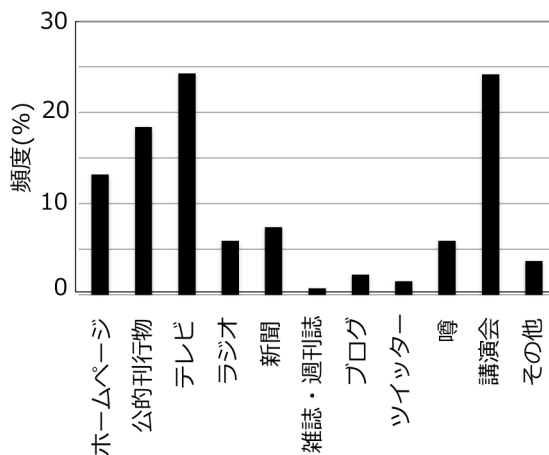
○信頼できなかった情報源

1. 政府(29%)
2. マスコミ(20%)
3. 地方自治体(14%)
4. 医師(13%)
5. 国際機関(8%)

情報量に対する満足度



情報媒体



○信頼できた情報媒体

1. 講演会(13%)
2. テレビ(10%)
3. ラジオ(10%)
4. 公的刊行物(8%)
5. その他(7%)

○信頼できなかった情報源

1. ツイッター(56%)
2. ブログ(48%)
3. テレビ(14%)
4. ホームページ(13%)
5. 噂(8%)

【緊急時リスコミ実態調査纏め（概略）】

平成24年度 JST リスコミで Q&A 講演会聴講者を対象に福島原発事故後のリスコミの実態についてアンケート調査を行った。回答数は、2,209件（78%）でそのうち男性が52%、女性が48%であった。年齢層は40歳代にピークを持つ分布であった。

まず、住民が原子力および放射線に関する知識を持っているかどうかを尋ねたところ、95%以上が学校教育で習っておらず、およそ83%が原子力放射線に対する知識はほとんどないと答えており、我が国には原子力及び放射線の基礎教育がほとんどなされていないことが判った。

ついで、情報量について尋ねたところ80%以上の住民が不十分と答えた。情報源としては、多岐にわたっているが最も多くの情報を得たのは地方自治体とマスコミであった。こうした緊急時に最も多くの情報を持っている国からの情報が極端に少なかったことが判った。情報源に対する信頼性を問うたところ、最も信頼できた情報源は科学者で、最も信頼できなかった情報源が国であった。国からの情報が少ないことと関連して、我が国における緊急時情報伝達システムが「国⇒地方自治体⇒住民」という流れで動いていることが判るが、緊急時のシステムとしては、問題が大きいことが明確である。地方自治体、マスコミおよび医師は、信頼できる情報源と信頼できない情報源の両者の高位に位置している。このことは、これらの情報源が原子力や放射線に対してその分野に属する専門家の間で共通した知識と見識を持たない可能性が示唆される。

情報の媒体について尋ねたところ、多くの住民が様々な媒体から情報を得ていることが判る。TV や公的刊行物、ホームページなどが媒体として上位に位置することが判った。特記すべきことは、講演会がテレビとともに一番利用された媒体であったことである。媒体の信頼性を問うたところ、講演会が最も信頼度が高く、情報収集源として現代社会に定着しているツイッター、ブログ、ホームページ及びテレビ等は、圧倒的に信頼できない媒体であると判断されている。このことは、緊急時であっても垂れ流される情報を住民は容易に受け入れていないことを示唆している。反面、即効性が無いと思われる専門科の講演会は、信頼できると判断されている。これらのことを考えると、緊急時であっても顔が見られる情報提供システムを取ることが緊急時のリスクコミュニケーション法として重要であることを示唆している。少なくとも我が国にはそのシステムは完備されていない。